

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃげきだんかぜのこ		団体ウェブサイトURL
	有限会社劇団風の子		https://www.kazenoko.co.jp
代表者職・氏名	代表取締役 菅原武人		
制作団体所在地	〒 192-0152	最寄り駅(バス停)	縄切
	東京都八王子市美山町1320-1		
電話番号	042-652-1001		
ふりがな 公演団体名	げきだんかぜのこ		団体ウェブサイトURL
	劇団風の子		https://www.kazenoko.co.jp
代表者職・氏名	代表取締役 菅原武人		
公演団体所在地	〒 192-0152	最寄り駅(バス停)	縄切
	東京都八王子市美山町1320-1		
制作団体 設立年月	1950年7月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役/菅原武人 事務局長/岡本圭 制作部長/浅野井優子 創造担当/竹添秀憲		【構成員】俳優11名、制作・事務所8名、文芸・演出3名 【加入条件】劇団風の子国際児童演劇研究所卒業業者及び一定の経験者、18歳以上の健康な方

事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	岡本圭
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	西川恵美子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	okamoto@kazenoko.co.jp		
制作団体沿革	<p>1950年7月、子どもの為の専門劇団として創立。以来『子どものいるとどこへでも』を合言葉に、全国を巡演。1983年より全国に地域劇団風の子を発足させる。劇団風の子北海道、劇団風の子中部、劇団風の子関西、劇団風の子九州がそれぞれ法人独立し、現在「有限会社劇団風の子」は首都圏を拠点に活動している。</p> <p>【受賞歴】「カレドニア号出帆す」都児童演劇コンクール奨励賞・NHK脚本賞・都優秀児童演劇選定優秀賞／「宝のつるはし」都児童演劇祭優秀賞・児童福祉文化奨励賞／「ジョディとフラッグ」都優秀児童演劇選定優秀賞／「小さい劇場」都優秀児童演劇選定優秀賞／「チワンの星」都優秀児童演劇選定優秀賞／「突然の陽ざし」都優秀児童演劇選定優秀賞・斎田喬戯曲賞・文化庁優秀舞台芸術奨励公演／「風の子バザール」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦・厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財／「お祭りどんぶり」都優秀児童演劇選定優秀賞／「ぼくたちの南十字星」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦／「ガヤガヤとムツリのたんじょうび」中央児童福祉審議会特別推薦／「おはなしちんどん」社会保障審議会特別推薦・児童福祉文化賞推薦／「陽気なハンス」日本児童演劇協会賞・厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財</p> <p>その他多数</p>		
学校等における 公演実績	<p>【2018年度実績】878日1,036ステージ 【2019年度実績】787日919ステージ 【*2020年度実績】335日515ステージ 【2021年度実績】408ヶ所473日799ステージ ＊コロナ禍で激減した公演ですが、翌年より密を回避するために実施日数・回数を増やして公演を続けています。ステージ数については2022年度はコロナ前に回復していますが、日数を見ると、本当にはま【2022年度実績】 525ヶ所573日924ステージ</p> <p>●小学校公演●5作品210ヶ所249日439ステージ 「スクラム★ガッシン」61ヶ所61日94ステージ／「ちえんじ・図書室のすきまから」49ヶ所58日100ステージ／「とんからり」56ヶ所72日150ステージ／「ソノヒカギリ美術館」33ヶ所45日72ステージ／「風的一座」10ヶ所12日22ステージ</p> <p>●幼稚園・保育園公演●7作品270ヶ所279日429ステージ 「とんからり」50ヶ所53日85ステージ／「ソノヒカギリ美術館」30ヶ所32日48ステージ／「風的一座」18ヶ所18日26ステージ／「ないしょないしょのしっぽがぼん」45ヶ所49日69ステージ／「おおぐらんぱ！」61ヶ所59日86ステージ(一日に場所を移動した公演あり)／「とかとか」65ヶ所67日113ステージ／「黄金の実」1ヶ所1日2ステージ</p> <p>●その他● 45ヶ所45日56ステージ</p>		
特別支援学校等に おける公演実績	<p>都立南大沢学園／岡山県新見市健康の森学園／宮崎県日南市くろしお支援学校／福島県会津若松市特別支援学校／広島県庄原市特別支援学校／埼玉県日高市特別支援学校／静岡県伊豆の国市東部特別支援学校／青森県青森市青森県立青森若葉養護学校／北海道黒松内町北海道余市養護学校しりべし学園分校／北海道札幌市手稲養護学校／群馬県立沼田特別支援学校／岐阜県立恵那特別支援学校／北海道帯広養護学校／北海道中標津支援学校、など。公演だけでなく、子どもたちの実情に合わせながらのワークショップも多くてがけています。</p>		

参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料		有	
	※公開資料有の場合URL	①	https://youtu.be/9nnPKlCfISs	
		②	https://www.youtube.com/watch?v=0RSD67f2910	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード		ID:	
		PW:		

<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>①公演先の「〇〇小学校、〇年生の作品展・見たこともない妖怪、妖精を作ってみよう」 子どもたちが作るアート作品を展示します。素材は段ボール、紙コップ、折り紙、布、ストロー、包装紙など子どもたちの身近にあるもので工作をし展示をします。</p> <p>②絵にタイトルを付けよう～自分で考えたタイトルが作品を彩る認め自己肯定 まだタイトルが決まっていない抽象画を観て子どもたちにタイトルを募ります。様々なタイトルが子どもたちから出てきます。その中から一つに決めるのではなく、すべて子どもたちから出たタイトルをこの抽象画のタイトルとします。</p> <p>③ピクトグラムで絵を作ろう～子どもたちの自由な想像力を高める 公演の終盤、子どもたち数名が舞台上がり、ピクトグラム(絵文字、マグネットシートを切り出し彩色したもの)を自家製の円形のホワイトボードに張ってもらい一つの絵にします。そして、その場で先生に即興でタイトルを決めてもらい、ソノヒカギリ美術館の展示物の一つとします。</p> <p>④額縁の中で絵になってみよう～身体を使って表現を楽しむ表現力の向上 公演の終盤、高さ2メートル幅3.5メートルの大きな額縁が出てきます。子どもたちから参加者を募り、学芸員が絵のタイトルを即興で伝えます。子どもたちはその場で身体を使って表現をします。たとえば「運動会」と学芸員が言えば子どもたちは即座にリレーのバトンを渡すシーンや綱引き、玉入れ競争などを行います。表現する子どもたち、それを学芸員がコメントして観ている子どもたちも楽しめます。</p> <p>⑤ソノヒカギリ美術館の鑑賞～すべての五感を使い、この芝居を振り返る、まさにみて、さわって、あそべるを体験する振り返りの時間 この作品の最後のセリフは「ソノヒカギリ美術館、オープンです」で終わります。文字通りこのセリフのあとに学年ごとにゆっくり作品を間近で鑑賞していきます。舞台装置として①の作品展の作者が自分の作品の脇に立ちその作品の見どころを説明します。そして、④で登場した巨大な額縁に入って自由に表現を楽しんで教室に戻ります。</p>						
<p>出演者</p>	<p>菅原武人・宮澤衣蒨、三ツ井奈緒(予定)</p>						
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 3 名 スタッフ: 1 名 合 計: 4 名</p>			<p>運搬</p>	<p>積載量: 1 t 車 長: 4.69 m 台 数: 2 台</p>		
<p>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</p>	<p>前日仕込み</p>	<p>有</p>	<p>前日仕込み所要時間</p>		<p>2 (条件によって前日仕込み無しにもできます) 時間程度</p>		
	<p>到着 6時30分 (前日仕込み有の場合7時30分)</p>	<p>仕込み 6時30分～9時/ (ワークショップ9時00分～10時)</p>	<p>上演 11時10分～12時10分</p>	<p>内休憩 0分</p>	<p>撤去 13時00分～14時30分</p>	<p>退出 14時40分</p>	
<p>※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。</p>							

本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月	8月	9月	10月
	5日	10日		10日	
	11月	12月	1月	計	34日
	9日				
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安 ①作品作り 20人 ②ビクトグラムで絵を作る 4人 ③身体で表現 8人 ④ソノヒカギリ美術館の鑑賞 全員
		鑑賞人数目安 最大150人

『ソノヒカギリ美術館』舞台の様子 舞台設置に必要な面積 約8m(間口) × 6m (奥行)
 体育館フロアに舞台を設置します。



公演に係るビジュアルイメージ
 (舞台の規模や演出がわかる写真)

プロのアーティストの作品



「
 」
 (タイトルのついていない絵)
 ナカムラジン

「MANDARAKE」
 森泉 智哉



「ブコビナ地方とダルメティア地方の
 都市住居 (20XX年)」 松田光一



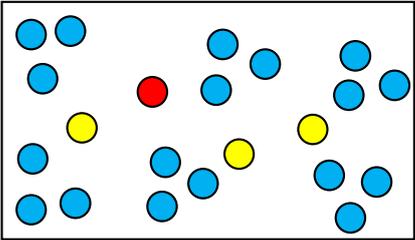
「潜 思」
 赤羽 雄太



「青いベンチとトゲトゲ大地」
 吉村 正美

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 劇団風の子 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	①作品作り 20人 (全校生徒の人数による。少なければ、全員も可能)
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>事前に各学校に作品資料とワークショップの内容と目的、準備していただくものなどの明細を送ります。各学校で事前に参加学年を決めていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇団員の自己紹介 ・簡単に心と身体をほぐすアイスブレイクゲーム ①公演先の「〇〇小学校、〇年生の作品展・見たこともない妖怪、妖精を作ってみよう」 <p>ソノヒカギリ美術館の特別展であることを説明します。身近な素材(段ボール、新聞紙、布、折り紙、付箋、ストロー、紙コップなど)を使って作品を作ります。一人一作品を仕上げます。劇団員がサポートします。作品にはタイトルと作家の名前を明記してもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できあがった作品を劇団員のファシリテーターが作者に見どころを尋ねながら、みんなで見合います。 ・作品は公演の終盤、学芸員がソノヒカギリ美術館の特別展として一つ一つ紹介していきます。 ・②、③、④、⑤は本公演への参加なので事前ワークショップはありません。 <p>別添にてワークショップの様子を載せております。</p>		
ワークショップのねらい	<p>絵を描くことや工作することが苦手な子どもはいると思います。しかし、この工作ワークショップは「見たこともない妖怪、妖精を作ってみよう」つまり、正しい答えがあるわけではないのです。正解のない創作活動。子どもたちがこれでいいと思えば、それが正解となります。正解のある答えも必要な時はあります。でも、時には正解のないものが自分の周りに存在することを感じることも大切です。</p> <p>まずは楽しんで作ること、それは自分の作品だけではなく、他者の作ったものも楽しむことで、他者を認めることにもつながります。作品を作り上げることで得られる達成感が自己肯定感の向上と他者を思いやる心を育みます。これがワークショップのねらいです。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>ワークショップの実施形態 ○作品作りワークショップ</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 装飾用材料コーナー </div> <div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> ● 主指導者 ● 補助者 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> ● 児童生徒 </div> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に段ボールなど材料セットを置いておきます。 ・主指導者や補助者がまわりながら、声かけや危ないときに指導します。子どもたちの表現を引き出す手助けをします。 		

本事業への申請理由

【公演団体名

劇団風の子

】

①本事業に対する取り組み姿勢**①本事業に対する取り組み姿勢**

全ての児童青少年が、居住している地域、家庭の経済事情、学校の規模などに左右されることなく、豊かに文化芸術を享受する機会に恵まれることを趣旨としている本事業は非常に高い評価を得ています。実施した学校では、子どもたちはもちろん、先生方、保護者にも感動を与え、その後学校内での演劇鑑賞教室を実施する学校も増えています。

劇団風の子は1950年から一貫して先生方と共に、学校内における演劇鑑賞教室を広げました。全国を視野に入れた展開ですが、拠点である首都圏を見ると、もともと演劇鑑賞教室の実施が広がった1990年代に比べ現在の実施率は45%を切る状況です。

本事業を生かし、教育委員会、教育事務所、校長会、PTAなどに働きかけ、演劇鑑賞教室の回復を強く求めています。劇団風の子は制作部員も専従で複数名で活動しており、ていねいできめ細かな仕事ができると自負しております。

本事業により、子どもたちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としております。又、少子化により小規模校も増えていますが、それを力として、保護者、祖父母の三世代で鑑賞する機会をふやし、家庭、地域での豊かな感情の育成にも役立てたいと思います。

上記のこの実現のために、本事業に申請します。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

・事前に

作品資料、ワークショップ内容の説明、準備していただくものの明細を送付します。その後、電話で、お送りしたものを確認し、打合せの日程を決めます。

打合せに伺い、担当の先生と、公演当日のワークショップと公演の進行、客席のつくり方など丁寧な打ち合わせを行います。

・当日

午前中の舞台準備後、子どもたちとワークショップを行います。

まず、公演全体の流れを説明し、その中でとても大事な場面を受け持っていただくことを伝え、子どもたちの期待感を高めます。

ワークショップはのびのびと楽しんで、子どもたちの発想や意見をどんどん作品に生かせるよう進めます。

その後、子どもたちの作品を展示し、仕上がった作品をお互いに楽しむ時間を作ります。作品を作る達成感と他者との違いを認め合う時間を取ることで豊かな感性を育むことにつなげます。

(1)1校時目よりワークショップを実施し、午前公演を実施することで、午後公演の暑さから生じる熱中症対策をはかります。

(2)作品づくりワークショップの時間を長くとることで、より子どもたちの発想力を形にし、丁寧に作る時間を持てるようにしてきました。また、製作後のお互いの作品を認め合いつつ楽しむ時間も十分に持てるように考えております。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

劇団風の子

】

<p>C区分で事業を実施するに当たっての工夫</p>	<p>① 離島・へき地等における公演実績 2023年度「ソノヒカギリ美術館」2公演 2022年度「ソノヒカギリ美術館」7公演 2021年度「ソノヒカギリ美術館」2公演 2020年度「風の子バザール」1公演 2019年度「風の子バザール」4公演 2018年度「スクラム・ガッシン」7公演、「ペコと秘密の樹」4公演、「おはなしちんどん」9公演、「風の子バザール」2公演、「小さい劇場B」4公演、「風の一座」3公演 2017年度「小さい劇場C」8公演、「風の一座」11公演、「スクラム☆ガッシン」1公演 2016年度「おまつりびーひゃらどん」5公演、「風の子バザール」14公演、「小さい劇場A」2公演、「小さい劇場C」4公演 2015年度「小さい劇場A」8公演、「陽気なハンス」1公演、「なんかよーかい」1公演 2014年度「風の子バザール」4公演、「陽気なハンス」15公演</p> <p>② 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫</p> <p><離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・島の場合、漁船やチャーター船、定期船など、島に応じて利用します。 ・舞台道具をコンパクトにまとめる工夫をして、人と道具はワゴン車二台で運搬移動します。 <p><小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館入口にも美術館に似せ、楽しくにぎやかな展示があり、期待感を高める演出です。 ・展示作品は、プロの作家による作品5点と、古典的作品をオマージュした作品と複数の美術スタッフによるオリジナル作品で、絵画と立体を合わせて14点。武蔵野美術大学の教授にもアドバイスをいただき、いずれも鑑賞に堪える質の高いものやユニークなものを展示しています。 ・学芸員役の二名の俳優は、この芝居の不思議な世界に子どもたちを引き込み、アキ役の俳優は、子どもに迎合することなく共感を得ることができる俳優です。 ・ワークショップは劇団風の子が得意とする表現遊びに図画工作的視点を取り入れた内容で、子どもたち一人ひとりの発想と、他者を認めることを大事にしながら進めます。 ・ワークショップの講師は構成演出家であり、小学生向けの表現力・コミュニケーション能力向上ワークショップを通して年間約1万人以上の子どもたちと出会っています。その他児童相談所、先生方の研究会、有明教育芸術短期大学子ども教育学科の講師など多岐にわたり活躍しております。 ・島では島民の方々との交流を大切にします。 ・日本のみならず世界で活躍するアーティストによる本物の美術作品を転じております。 <p>「 」(タイトルのついていない絵)・・・ナカムラジン(8th日本グラフィック展協賛企業賞受賞、2012年アートフェア東京、他展覧会多数) 「MANDARAKE」・・・森泉智哉(2009第10回日仏現代美術世界展入選)、2011イルフ童画大賞展入選、他個展など) 「青いベンチとトゲトゲ大地」・・・吉村正美(1996年版画協会展、1998神戸版画ビエンナーレ、1999フィレンツェ賞展、他個展) 「ブコピナ地方トダルメティア地方の都市住居(20xx年)」・・・松田光一(2017年第68回カレンダー展奨励賞 日立グループカレンダー、ANA機内誌表紙絵(2020,2019)他個展など) 「潜思」・・・赤羽雄太(2012年第86回国展彫刻部「千野賞」受賞他個展</p> <p>iii) C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫</p> <p><経費削減の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップと本公演を同日開催にすることで派遣費を削減します。 ・ベテランのキャストとスタッフを派遣することで、少人数でも質の高いワークショップと公演が実施可能となります。また、芝居の仕込み、バラシ、車の運転をキャスト、スタッフが兼ねることで旅費を削減します。
----------------------------	---

リンク先	No.3	【公演団体名	劇団風の子 】
ワークショップでの様子	<p><作品作りワークショップの様子></p> 	<p>⇒ 段ボールを素材としながら新聞紙、布、折り紙、付箋、ストロー、紙コップなどを使った作品作り</p>	
	<p>一人ひとりの作品の見どころなどをみんなで共有しているところ ⇒</p> 		
	<p>子どもたちが製作した作品 「〇〇小学校、〇年生の作品展・見たこともない妖怪、妖精を作ってみよう」</p> 		
	<p><本公演での参加場面> 額縁の中の切り取りアート</p> 		